教育の発展へ向けて

保川有梨

推薦クラブ：市原ロータリークラブ
派遣期間：2022年8月～2023年8月
留学先：California College of the Arts
専攻：Master of Design, Interaction Design (MDes IxD)

皆さま初めまして。8月よりグローバル補助金奨学生としてCalifornia College of the Artsに留学いたします、保川有梨と申します。私はこれまで教員、日本語教員、トレーニングコーディネーターとして教育に携わってきました。本留学を通して、教育の発展のために学びを更に深め、経験を積んで参りたいと思っています。

私が教育の道に歩み始めたのは、幼い頃の経験がきっかけです。幼い頃、私の一番上の姉は厳しい教育環境によって、好きだった勉学を投げ出し、家出をし、結果的に高校を中退してしまいました。私はその時、家族がバラバラになってしまった悲しみだけでなく、環境が教育に及ぼす影響や、大人が子どもに与える影響の大きさを身をもって感じました。その頃から「良い影響を与えられる人材になりたい」という漠然とした思いをもち始め、大学進学と共にその思いは次第に強くなっていきました。

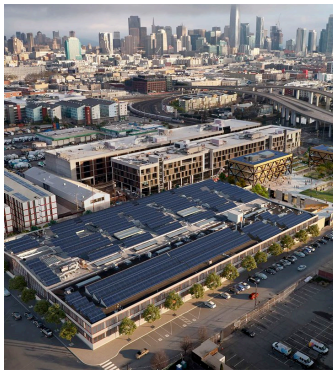
こういった思いから教育学を専攻し、その後教員として教育現場に飛び込みました。子ども達の学び方や成長は十人十色で、個に応じた支援の重要性を学びました。

（写真：市原ロータリークラブでの卓話。）

ある児童は、漢字の読み書きが苦手で、練習しても中々定着できませんでした。ある時、通常の漢字テストを彼女が懸命に学習していた問題のみに絞り込み順序を入れ替え出題したところ、彼女は満点を取ることができました。

この経験は私に、子ども達が触れ合う教材の重要性を教えてくれました。教材に教育者の意図を存分に反映させることで、子ども達の習熟や学習意欲を促進することができ、より個別のニーズに沿ったアプローチができるのではないかと考えるようになりました。この思いを加速させてくれたのは、日本語教員として働いた米国での経験です。子ども達が日常的にPCやタブレットで学習する様子を目の当たりにし、デジタル機器の教育への介入は無視できないところまで来ていることを実感すると共に、デジタル教材の分野の可能性を感じました。そして、教材設計の視点から教育に携わっていきたいという思いをもとに、修士課程への進学を決意しました。

修士課程では、インタラクションデザインという、人とものの関わりを研究する分野において、互いの影響や効果を検証していくことで、教育に貢献できる人材として成長したいと考えております。



（写真：California College of the Artsはベイエリアのサンフランシスコに位置します。）

今回、このような貴重な機会をいただきましたこと、また、市原ロータリークラブをはじめとするロータリー会員の皆さまから多大なご支援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。大変光栄で、身が引き締まる思いです。地域社会に根付いた取り組みを既に実践されていらっしゃる多くの先輩方に続けるよう、ご指導ご鞭撻を賜りながらロータリーに貢献して参る所存です。